

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	事業所から
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	1			・コロナ中に、さらに活動スペースが広がり整理整頓されていました。	・これからも、子どもたちが過ごしやすい環境作りを心がけます。お気づきの点がありましたら、いつでもお声かけください。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	14					・人員数だけでなく、支援知識や技術の向上を怠りません。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境iになっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	14					・清掃員が室内の清掃や衛生面の一部を担っております。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	14					・名前がなくとも、どなたの計画書か判断できるような、個別性を持った計画書が作成できるよう、今後さらにスキルアップしていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	13	1				・コロナも5類に移行しましたので、さらに地域へと出ていきたいと考えています。障がいのあるお子さんも、「地域の子ども」として認識され、生まれ育った地域で安心して生活することが願いです。また、これからも、発達ニーズに沿った支援計画書作りを心がけます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	14				・希望に沿ったもの、本人に合ったものを行っていただいている。	・ミーティング時、必ず計画書の確認を行っています。更なる支援の向上を目指します。
	8 活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	14					・週ごとにプログラム作成担当者数名おり、楽しそうに案を練っています。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	事業所から
適切な 支援の 提供	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	7	2		5	・コロナ前は、交流がありましたので、今後再開されることを願います。	・交流を再開したいと考えていましたが、コロナが落ち着いたとは言い難く、今年度は見送りました。次年度、様子を見ながら再開したいと思います。
	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12	1		1		・今後も丁寧な説明を心掛けます。ご不明な点はいつでも、お問合せください。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	12	1		1		・実際の支援用品や写真等を提示しつつ、わかりやすく説明したいと思っています。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	9	1		4	・先日講習していただきました。とても勉強になりました。	・小規模ながら、今年度は3回保護者様向けの勉強会を実施することができました。次年度はさらに広げていきたいと考えています。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	14				・連絡ノート以外にも、口頭でその日あった様子や状況を教えていただいている。	・連絡ノートに写真を添付するなど、できる限り様子が伝わる工夫しました。保護者様と共に、子どもたちの次のステップを見据え、発達を応援していきたいと思っています。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13			1	・支援計画を立て直す時には、子どもの様子や困っていることの助言をしてもらっている。 ・定期的にとというより、都度相談しています。	・モニタリング時などを待たず、適時ご相談いただきたいと思います。保護者様と一緒に悩み、考え、そして改善策を見出していきたいと思っています。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	事業所から
適切な支援の提供	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	7	4		3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが明けて、ようやく他の保護者の方々とお話できる機会を設けていただきました。 ・今年度、未就学児の保護者同士の交流機会を作っただき、貴重な時間を過ごすことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様同士の繋がり、保護者様と職員の繋がりを深めるための良い機会となりました。次年度は、さらに開催の機会を増やせるよう、検討して参ります。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11	3			<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることを相談すると、すぐに対策や対応を考えていただけます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様と共に考え、対応策を検討したいと思っています。いつでもご相談ください。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13	1			<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートを使って、情報共有ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子が、目に浮かぶような記載を心掛けています。今後もスキルアップを図ります。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	14				<ul style="list-style-type: none"> ・facebook、Instagramなどでも見れますが、月に1回発行の【あおぞらクローバー】は楽しみです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あおぞらクローバー・ジャンプ共に、両面印刷での発信とし、写真をさらに増やしています。SNSの発信も含め、元気な子どもたちの姿をより多く皆様にお届けしたいと思っています。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	14			1		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	12	1		1		<ul style="list-style-type: none"> ・いずれのマニュアルも完備されています。訓練の様子については、今後も広報誌等でお知らせいたします。ご不明な点は、いつでもお問合せください。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	13			1		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し、机上や実際の訓練を実施しています。実施状況は、広報誌等でお知らせします。なお不明な点はいつでもお問合せください。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	事業所から
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	14				・とても楽しみにしています。	・子ども達が心から安心し、自分らしく活動できるよう今後も力を注ぎます。また、保護者の皆さまにも安心してお任せ頂けるよう、支援技術の向上を図り続けます。
	23	事業所の支援に満足しているか	14			1	・家庭ではできない事にもチャレンジしていただいて、感謝しています。 ・もっと早く通いたかったです。大満足です、ありがとうございます。 ・みなさん良い方たちばかりで、頼りにしています。	・元気と笑顔いっぱいでお待ちしています。楽しく遊びながら、発達を促していきます。これからも、よろしく願いいたします。

i 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

ii 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

iii 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

iv 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。